「柏崎の橋」

１６　小坂橋

小坂橋（こさかばし）は、昭和３８年北条停車場安田線の一部として安田から北条に通じる鯖石川に架けられた橋である。「おさかのはし」ともいわれる。

古来、「橋梁、渡場一ヶ所、鯖石川ノ舟渡村ノ東ニアリ大小船二艘領主ヨリ造作ス」（白川風土記）とあるように、この辺りには船渡し場があり、魚沼街道の要所であった。その位置は、『新潟県歴史の道調査報告書第六集』（新潟県教育委員会）魚沼街道の部にて現在の橋より下流に位置することがわかる。下の写真はかつて鳥越の渡しで、その後架けられた小坂橋である。関甲子次郎が刈羽郡案内を編纂時に小熊写真屋に写させたものと記載があることから、明治中期の写真と推測される。

明治中期頃の小坂橋か（柏崎文庫 18-2 より掲載）

鯖石川は急流で、出水毎に川瀬が変わり、旅人は足止めさせられたという。したがって渡し場に橋を架設することは、宿場の北条村をはじめ、北条郷の念願であったようだ。

天保１３（１８４２）年3月、北条郷の各村々は新しい橋の架設を代官所に願い出ている。同年に着工、秋には小坂橋が竣工した。橋の経費は各村で負担した。

現在の小坂橋
鳥越から北条方面を望む。右上は八石山

しかし、その後も幾度となく洪水により落橋、破損するたび普請を繰り返し、明治２（１８６９）年には長さ３０間、巾１間、１間毎に三本宛の杉の橋杭でできた橋となった。

昭和３５年の水害では橋が流出したため、県の災害関連工事で鉄筋コンクリートの永久橋になることが内定するなど、度重なる水害には昭和の時代になっても苦しまされた。

また、神林栄二氏寄贈写真資料に昭和３６年豪雪の小坂橋を見ることができる。急行羽黒が北条駅で止まり、乗客は下車し、北条駅から安田に向かって行列になってなりふりかまわず歩いた様子が神林氏の文から伝わる。「鯖石の橋。安田のほうで、４・５人が働いているのが見えました。救援隊の人たちです。思わずオーイの声が出ます。オーイと答えている様子です。橋のあたり、風の道か、雪も少ない様子でした。（中略）カンジキはずして、安田と北条の衆にアリガトウと一言。」

小坂橋は人々の知恵の賜物であり、これからも私たちを支えていくであろう。

●参考資料
「北条町史」（224　キタ）北条町史編纂委員会
「田尻村のはなし」（224　サカ）酒井薫風
「田尻漫歩　今むかし」（224　タシ）田尻公民館
佐藤稔家文書　　関亮太郎家文書